

第57回

新千歳空港の24時間運用に関する苦小牧市地域協議会

議事録

日 時：令和7年8月21日（木）18時30分開会
場 所：J F E リサイクルプラザ 苦 小 牧

第57回新千歳空港の24時間運用に関する苦小牧市地域協議会

- ・日 時 令和7年8月21日（木）18：30～19：40
 - ・場 所 JFEリサイクルプラザ苦小牧
-

・議 題

- (1) 新千歳空港における最近の動向について
 - (2) 令和6年度航空機騒音測定結果等について
 - (3) 住宅防音対策の進捗状況等について
 - (4) 地域振興対策の進捗状況等について
 - (5) 新千歳空港周辺地域振興基金について
 - (6) その他
-

◎地域委員 出席者（19名）

◎北海道（6名）

◎苦小牧市（7名）

◎公益財団法人 新千歳空港周辺環境整備財団（4名）

◎北海道エアポート株式会社（4名）

1. 開会

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） 皆様、こんばんは。
本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。
それでは、定刻となりましたので、ただいまから第57回新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会を開催いたします。
本日の協議会は、お手元に配付をしております次第に基づきまして進めさせていただきます。

2. あいさつ

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、協議会の開会に当たりまして、北海道総合政策部交通企画監からご挨拶を申し上げます。

● 北海道（交通企画監） どうぞよろしくお願ひします。
皆様方には、本当にご多用中のところ、協議会にご出席をいただきまして、お礼を申し上げます。また、道の航空行政並びに新千歳空港の運用に関しましても非常にご理解、ご協力をいただいておりまことにつきまして、重ねてお礼を申し上げます。

新千歳空港は、コロナ禍が明けて、大変利用者も堅調でございまして、先日、報道等にもありましたが、昨今、開港以来最多の利用者数を記録するなど、ますます新千歳空港の役割というものは非常に高まっているなど、こういった認識にございます。

そうした中で、人口減少が進み、どの業態も人手不足が深刻化しており、航空政策を進める上でも、人材の確保は非常に重要な課題であり、そういう課題を一つ一つ皆様のご理解、ご協力をいただきながら、今日も苫小牧市さんがいらっしゃいますが、北海道エアポートさん、また、財団、我々関係機関がしっかりと連携して、より新千歳空港の役割というものを高めていくことで、皆様方にも様々な場面でいろいろな感謝を表せるような取組をしていかなければいけないなと思っています。

いずれにしても、根底にありますのは、私もこの職に就いて、過去の経過を可能な限り勉強させていただきましたけれども、やはり、平成27年、皆様にいろいろとご理解いただきました合意に基づく様々な対策、これをしっかりと取り組んでいくことで責任を果たして、皆様のこれまでのご心労、また、いまだにいろいろとご懸念があろうかと思います。こうしたものをしっかりと払拭していくことが、我々関係者がさらに努力をすべきことなのだろうなと心から思っています。

私どもも、本当にそうした認識の下に、これからも着実に施策を進めていきたいと思っておりますので、今日は、改めて、皆様方お一人お一人から貴重なご意見をいただきて、我々の取組に生かし、この地域を含めて地域振興にもしっかりと汗をかくような、こういった取組を続けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

ありがとうございます。

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございました。

続きまして、苫小牧市副市長よりご挨拶申し上げます。

●苫小牧市（副市長） 皆様、おばんでございます。

本日は、大変お忙しい中、また、夜分にもかかわらずご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

地域協議会の委員の皆様におかれましては、新千歳空港の24時間運用に関しまして、常日頃よりご理解とご協力をいただいておりますことに対しまして、厚くお礼を申し上げます。

また、私ごとですが、これまで3年間、部長の立場で皆様には大変お世話になりました。職責は変わりましたけれども、また引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

さて、新千歳空港につきましては、皆様ご承知のとおり、昨年度は開港以来最多の旅客数となり、にぎわいを見せた一方で、深夜・早朝時間帯に係る遅延便数も過去最高となつたことを受け、本市におきましても、7月に国土交通省及び北海道エアポートさんに対して申入れを行ったところでございます。

皆様とお約束をさせていただいております住宅防音対策につきましては、北海道や財団と連携しながら事業を進めているところでございますが、今後も皆様からのご意見等を賜りながら着実に実施してまいりたいと考えてございます。

今後も引き続き、皆様をはじめ、関係機関と協力をしながら、新千歳空港のさらなる発展に向けて尽力してまいりたいと考えてございます。

改めまして、委員の皆様には、地域協議会の開催に対しますお礼と協議へのご協力をお願い申し上げまして、簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願ひします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございました。

この後は、着座にて進めさせていただきます。

3. 地域世話人の選出

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 次に、3の地域世話人の選出についてでございます。

協議会運営要領では、地域委員の互選により選出となっておりますが、いかがお取り計らいいたしましょうか。

A委員。

●A委員 前任者が受けていただければ、留任ということでいかがでしょうか。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ただいま、留任というご意見がございましたが、皆様、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、3地区の世話人につきましては、植苗地区はB委員、沼ノ端地区はC委員、勇払地区はD委員ということで、引き続きよろしくお願ひいたします。

4. 議題

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 次に、4の議題に入ります。

（1）新千歳空港における最近の動向についてを議題といたします。

北海道及び北海道エアポート株式会社から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 本日は、どうかよろしくお願ひいたします。

以後、大変恐縮ですけれども、着座にてご説明をさせていただきたいと思います。

新千歳空港におきます最近の動向及び近況につきまして、資料1-1及び資料1-2によりご説明いたします。

資料の1ページですが、資料1-1「新千歳空港における最近の動向について」をご覧ください。

最初に、資料上段の1の深夜・早朝時間帯における定期便の状況についてでございます。

令和7年8月末までの運航実績について整理しておりますが、今年度につきましては、昨年度よりも1便多い、1日最大11便を見込んでいるところです。

次に、資料下段の2、深夜・早朝時間帯における国際臨時・チャーター便の状況であります。令和5年度におきましては、韓国が3便、オーストラリアが1便の計4便の運航実績がありましたが、昨年におきましては運航実績がありませんでした。

道といたしましては、今後も引き続き、深夜・早朝時間帯の発着枠が有効に活用されるよう取り組んでまいります。

新千歳空港における最近の動向に関する道からの説明は、以上のとおりです。

●北海道エアポート株式会社（地域共生担当次長） 北海道エアポート株式会社新千歳空港事業所で地域共生を担当しております。どうぞよろしくお願ひいたします。

常日頃からの空港運営に対しまして、皆様のご理解、ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。この場をお借りしまして、深く感謝申し上げる次第でございます。

それでは、新千歳空港の近況につきまして、着座にてご説明させていただきます。

資料の1-2でございます。

2025年度新千歳空港発着便数でございます。

国内路線につきましては、観光需要や帰省需要が順調に伸びる中で、航空会社は各路線の便数をコロナ前の水準に戻したと言えます。

国際路線は、冬季観光需要の増加に対応するように、韓国、台湾、中国を中心に便数が回復しまして、前年の約1.5倍となりまして、過去を上回る便数となっております。

4月以降は前年比110%から130%で推移しておりますが、観光閑散期となり、コロナ前対比では67%前後に低下しております。

続きまして、下段でございます。

2025年度新千歳空港旅客輸送実績でございます。

国内線は、2024年10月以降、羽田路線の旅客数がコロナ前とほぼ同水準に回復いたしました。

その傾向は2025年度も継続しまして、国内旅客数は順調に伸びておりますが、海外乗り継ぎのインバウンドを含む旺盛な観光需要が全体を底上げしております。

国際線におきましては、北海道の冬季観光に対する海外インバウンド需要は韓国路線が牽引しております、加えて台湾、中国を中心としたアジア圏からの旅行客が大幅に増加しております。

地上業務の人手不足や燃油輸送体制などの課題解決に向けた取組も奏功したと言えます。

ただし、4月以降はコロナ前対比70%から80%に低下しまして、季節の偏差が顕著となっている状況でございます。

私のほうからは以上でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けいたします。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　それでは、ないようございますので、次に進めさせていただきます。

次に、（2）令和6年度航空機騒音測定結果等についてを議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　令和6年度の騒音測定結果などにつきまして、資料2-1から資料2-3によりご説明いたします。

初めに、3ページ、資料2-1「令和6年度航空機騒音測定結果について」をご覧ください。

苫小牧市内におきます航空機の騒音の測定局は、北海道が設置しました植苗局、ウトナイ局など9局と、苫小牧市が設置しました植苗会館局などの6局で、合計15局がありまして、これらの測定局で騒音値を測定しているところです。

表の右側には、年間L_de_n値と民航L_de_n値の2種類の数値を記載しておりますが、そのうち、年間L_de_n値とは、千歳飛行場に離着陸する自衛隊機を含む全ての航空機騒音を集計した結果となります。

また、民航L_de_n値とは、自衛隊機の離着陸のなかった日を民航機のみの航空機騒音を測定した日とみなして集計した結果でございまして、本日はこの民航L_de_n値についてご報告申し上げます。

資料の太枠で囲った部分が令和5年度と令和6年度の民航L_de_n値の測定結果となります。

自衛隊機の飛行日を除いた後の集計対象日数が異なることや、気象状況などによりまして算出値が変化する場合などがありますことから、単純には比較できませんが、令和6年度におきましては、運航便数の増加などにより、多くの測定局で昨年度の値を上回る結果となっております。

なお、全ての測定局において対策の目安となる環境基準を下回っておりますことを申し添えます。

続きまして、4ページになりますが、資料の2-2「令和6年度遅延便の深夜・早朝時間帯使用状況について」をご覧ください。

この資料での遅延便とは、地域の皆様に合意いただいております深夜・早朝30枠以外の便が何らかの理由で出発ないし到着が予定より遅れたことにより、その結果として深夜・早朝時間帯を使用することとなった便のこととします。

まず、1の航空会社別便数についてでございますが、令和6年度の遅延便の合計は729便となりました。

航空会社別では、ANAが全体の50%以上を占める376便でございまして、続いて、JALが例年並みの194便、AIRDOが昨年からほぼ半減となる105便となっておりまして、それぞれ全体の27%、14%を占める状況となっております。

次に、2の理由別便数についてでございますが、昨年開催されました地域協議会におきまして、大きくりにされているその他の項目をもう少し細分化してほしいというご意見をいただきましたことを踏まえまして、前回の資料よりも項目を増やしております。

表をご覧いただくとお分かりのとおり、例年と同様に、天候による遅れが275便と最も多く、全体の38%を占める結果となっています。

次に多いのが機材繰りによる遅れで、248便となっています。

各航空会社は、コロナ禍後の観光需要の急な高まりに対応しており、一つの機体で1日に多くの空港間を飛び交う運航パターンが多いという中で、機材の不具合や他空港の混雑などにより、いわゆる玉突き遅延が生じまして、例えば、21時台半ばが定刻の羽田行き最終便に使用する機材の到着が遅れ、その結果、22時を過ぎて新千歳空港を出発するといったケースなどが多く発生しています。

天候による遅延につきましては、月ごとの遅延便数を表の下にグラフとして記載しておりますので、紫色で表示されている令和6年度のデータをご覧いただきたいと思います。

例年同様、8月を中心とした夏場と2月を中心とした冬場に多くなっておりまして、夏は雷雨や台風による悪天候のほか、夏休みのときの空港施設の混雑が原因となっていることが多く、冬は降雪等による遅延が多かったことによるものと思われます。

続きまして、3の時間帯別便数についてですが、例年22時から22時19分の20分以内の遅延が一番多くなっておりますが、令和6年度も377便と、全体の約52%を占める状況になりました。

また、1時間以内の遅延であります22時59分までの遅延が全体の約88%を占める状況となっておりまして、こちらも例年と同じ傾向が見られるところです。

最後に、5ページ、資料2-3「千歳市側と苫小牧市側の着陸の状況について」をご覧ください。

この資料は、千歳市側にあります旭ヶ丘局、苫小牧市側にあります植苗局を代表の測定

局といたしまして、それぞれの測定局の計測値から着陸方向を判断したものであります、7時から21時59分までの日中と、22時から翌朝6時59分までの深夜、早朝の時間帯に分けてカウントしています。

新千歳空港を離陸する航空機につきましては、東京方面をはじめ、目的地に向かって南下するものが多く、千歳側から離陸する場合に、離陸後すぐに南向きに旋回して苫小牧側へ向かうことになります。

このため、苫小牧側の測定局でも千歳側からの離陸に係る騒音を測定してしまうケースがあります、測定値から離陸の回数を推定することが難しいことから、これまでと同様に着陸回数のみを集計しております。

上の表は令和6年度の着陸回数の推計値ですが、全体で千歳側が3万6,418回、苫小牧側が2万1,744回であります、比率では千歳側が63%、苫小牧側が37%となっています。

時間帯別に見た場合でも、7時から21時59分までは千歳側が3万5,140回、苫小牧側が2万1,108回、また、22時から翌朝6時59分までは、千歳側が1,278回、苫小牧側が636回と、着陸回数の比率はおおむね同じ傾向となっています。

なお、離陸につきましては、先ほどもご説明しましたとおり、計測値から判断することができませんが、着陸回数から推測しますと、離陸回数は苫小牧側で約3万6,000回、千歳側が2万2,000回程度と考えられます。

また、この計測値につきましては、あくまでも航空機騒音に基づきカウントしておりますので、実数値とは乖離が生じるものであるということをご承知おき願いたいと思います。

令和6年度航空機騒音測定結果等に係る説明は、以上のとおりです。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思います。

E委員。

●E委員 私、植苗の中央町内会なんですけれども、最近、千歳を向いて離陸して旋回するときに、すごく高度が低いんですよ。それで、すごい騒音になっているんですよね。そういうのはどうしたらいいんでしょうかね。要は、小回りするというような状態かな、航空機が。最近、そういうのがすごく多いんですよね。

そのところを何とか、よろしくお願ひします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、今、高度が低いというご質問ですけれども、お答えはできますでしょうか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 今のご質問なんですが、国土交通省東京航空局に以前確認したところ、航空機騒音の軽減の対策は、最大限講じて航空機の飛行コースにつきましても、住宅地域を避けた飛行経路を設定しており、変更等は行われていないということは聞いています。

ただ、何らかの理由によりまして、やむを得ずいつもと違う飛行をするという可能性も

当然考えられると思いますので、できる限りコースを守るよう、地域の声を関係機関に伝えていきたいと思います。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） よろしいでしょうか。

●E委員 はい。よろしくお願ひします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ほかにご質問はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ないようでございますので、次に進めさせていただきます。

次に、（3）住宅防音対策の進捗状況等についてを議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 資料の6ページになります。

資料3「住宅防音対策の進捗状況等について」をご説明いたします。

まず、一番上の令和6年度の実績等についてでございますが、苫小牧市分の部分、表の真ん中の太枠で囲まれた部分をご覧ください。

一番左側の列ですが、意向調査で回答があったのが、一般住宅で297件、305世帯、集合住宅で7件、83世帯、合計で304件、388世帯となっております。

工事の実績ですが、その一つ右側の列に記載しておりますとおり、令和5年度までの間に、一般住宅で139件、140世帯、集合住宅で3件、34世帯、合計で142件、174世帯の工事が行われてきました。

また、令和6年度は、一般住宅のみで13件、14世帯の工事が行われております。

昨年度までの合計の件数については表に記載はありませんが、令和5年度までの実績と令和6年度の実績を足すと、一般住宅で152件、154世帯、集合住宅は3件、34世帯、合計で155件、188世帯の工事が行われたことになります。

実施率は、件数で51%、世帯数で48.5%となっております。

また、令和7年度の計画につきましては、一般住宅のみ、17件、18世帯の工事が行われる予定となっておりまして、現在、12件、13世帯が着工となっている状況になっております。

このことから、今年度末までに一般住宅で169件、172世帯、集合住宅で3件、34世帯、合計で172件、206世帯の工事が完了する予定となっており、実施率は件数で56.6%、世帯数で53.1%となる見込みとなっております。

千歳市も合わせました令和6年度の工事実績と今年度末までの工事見込みについてですが、表の下段をご覧ください。

表の工事実績、R6欄の一番下段に記載しておりますが、令和6年度には、苫小牧市と千歳市を合わせて117件、193世帯の工事を実施したところでございまして、表の右側に記載のとおり、令和7年度末までには1,210件、1,756世帯の工事が完了す

る予定としていることから、実施率は件数で 54.8%、世帯数で 55.6%となると見込んでおります。

次に、2の令和7年度現地調査についてでございますが、この現地調査は、令和8年度工事のために実施するものでございますが、令和6年度までに1件実施済みでありまして、今年度は既に4月に一般住宅5件、7月に一般住宅6件を実施しております。

来月の9月には一般住宅4件を実施することとしております。

したがって、苫小牧市におきましては、現地調査を現時点では16件実施する予定となっておりますが、今年度の工事の進捗を勘案しながら、適宜、追加調査の実施も検討していく予定としております。

ここまで工事の進捗状況についてご説明してまいりましたが、皆さんご承知のとおり、毎年度、地域住民の自己都合による工事の先送りが何件か発生しております。

工事の進捗を図るために我々としても対応をいろいろ検討してまいりましたが、これまでの経緯もある中、急に取扱いを変えるということは、住民や工事事業者などの混乱や不信を招くおそれもあることから、財団では、当面の対応といたしまして、工事対象の世帯に対し、この事業には公費が使われております、計画的に工事を進めているということ、もう一つは、何らかの事情で工事を希望しない場合には早めに申し出てほしいことについて文書により周知することとしまして、今年度から実施しておりますことをご報告いたします。

今後も、工事の進捗の確保に向けまして、いろいろと工夫してまいりたいと考えておりますので、ご理解をよろしくお願ひいたします。

また、資料7ページ、参考の住宅防音工事の流れと財団の組織体制につきましては、記載内容が昨年と同様ですので、説明は省略させていただきたいと思います。後ほど内容をご確認ください。

なお、工事予定期など詳しい情報を知りたいといった場合には、財団までお問合せいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

住宅防音対策の進捗状況に係る説明は以上のとおりです。

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思います。

F 委員。

● F 委員 今まで聞いたことはなかったんですけども、この防音工事は、植苗地区だけだと思うんです。南・北・中央町内に防音工事をやっていると思うんです。この比率というのを、差し支えなければ発表していただきたいです。

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） 各町内会の内訳ということですけれども、回答をお願いします。

● 北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 各町内会の内訳については、別途、提供させていただきたいと思います。

●F委員 質問した意味は、航路の真下というのが南と北なんですよ。聞いている話では、南はもう7軒かそこらぐらいしか残っていないと聞いているんです。この率でいくと、もうかなりのパーセンテージをやっていただいているのかなと思っているんです。

ただ、植苗の総会でも、いつもこの防音工事の質問が出るんですけども、一番遅れているのが中央町内会かなと思っているんですよ。いつになるのという質問が、結構、植苗の今年の総会にも出ましたので、差し支えない範囲で、後で結構ですけれども、比率を知らせていただければなと思います。

よろしくどうぞ。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 今のご質問について、後日、データを提供したいと思います。

よろしくお願ひします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） そのほかにご質問はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ないようでございますので、次に移させていただきます。

次に、（4）地域振興対策の進捗状況等についてを議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 8ページ、資料4「地域振興対策の進捗状況について」ご説明をいたします。

皆様方におかれましては、既にご承知の部分もあるかと思いますが、各地域の状況につきまして、改めて順に説明をさせていただきたいと思います。

最初に、植苗地区についてです。

まずは、道営住宅の整備についてでございますが、植苗地区の星ヶ丘団地内に道営住宅を整備したものでございまして、令和6年2月までに全29戸の整備が完了し、現在満室となっております。

次に、道の駅関連施設の整備でございますが、平成31年3月にウトナイ湖畔の展望デッキが供用開始となっております。

次に、冷暖房機器等の設置についてでございます。

これにつきましては、令和6年度までに80件実施しております、令和7年度は10件の実施見込みとなっております。

住宅建設が可能となる区域拡大の検討に関しましては、先ほどご説明しました道営住宅が整備された星ヶ丘地区に係る地区計画が策定されまして、平成28年11月に告示済みとなっております。

続きまして、沼ノ端地区でございます。

複合施設の整備につきましては、平成30年10月に沼ノ端交流センターが供用開始と

なっております。

また、文化交流施設の整備につきましては、令和4年12月に苫小牧市東開文化交流サロンが供用開始となっております。

最後に、勇払地区でございますが、総合福祉会館の整備といたしまして、平成29年12月に勇払総合福祉会館が供用開始となっております。

地域振興対策の進捗状況についての説明は、以上のとおりです。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思います。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ございませんので、次に進めさせていただきます。

次に、（5）新千歳空港周辺地域振興基金についてを議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 新千歳空港周辺地域振興基金についてご説明をいたします。

9ページ、資料5「新千歳空港周辺地域振興基金について」をご覧ください。

まず、1の基金の概要についてでございますが、造成目標額30億円に対して、令和6年度末の造成済み額は19億5,970万円でございます。

そのうち、平成27年の30枠合意以降に積み増しした分でございますが、令和3年度までにご協力をいただきました17社からの総額1億1,750万円となっております。

ご寄附いただきました主な企業につきましては、表にあるとおりです。

2の基金造成に向けた取組についてでございますが、新型コロナウイルス感染症による社会情勢を踏まえ、一時的に企業等に対する個別の協力要請を中断せざるを得ない時期がありました。昨年度から寄附の要請活動を再開したところでございます。

経済界にも会員企業に対する周知などのご協力をいただきながら、主に空港関連の企業などに対し、基金への寄附の協力をお願いしてきたところです。

残念ながら、現時点までにおきましては、実際の寄附につながるような成果を上げるには至っておりませんが、今後も引き続き、企業等への働きかけを精力的に進めてまいります。

基金の造成目標額の未達成分に関しましては、基金運用益の見合い分として、道から財団に1.5%金利見合いの約1,500万円を補助しております。基金運用益と合わせて財団から関係の町内会等に交付しております。

なお、今年度につきましても、昨年度と同額程度が確保されて、既に関係町内会に配分されておりますことを申し添えます。

説明は以上です。

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思います。

F 委員。

● F 委員 この 30 億円の基金の件なんです。

コロナで中断されたのは、やむを得ないにしましても、もう 30 年近くも経っていて、この 30 億円はいつを目標にしているんですか。

北海道庁さんにこれを出してもらっているというのは本当に心苦しいんですが、いつまでに 30 億円にするというのがあったらお聞かせいただきたいんです。

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） 目標についてということですけれども、よろしくお願ひします。

● 北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） この 30 億円の目標ですが、皆様とのお約束ですので、早く達成したいというふうに思っておりまして、昨年度から、基金への協力依頼について再開したところなのですけれども、何分、相手もあることで、今のところは、残念ながら、ご協力を得られたというような報告ができない状況で、力不足を痛感しているところでございます。

目標につきましては、なるべく早くとしか言えないのですが、今後も粘り強く企業訪問を続けていきたいと考えておりますので、大変申し訳ありませんが、ご理解いただきたいというふうに思います。

● F 委員 企業にだけでなく、この前のエアカーボ委員会でも、この遅延便のペナルティーを取つたらいいんじゃないかと言う人もいたんですよ。北海道は遅延便に対して、一切ペナルティーはないですからね。他空港では、そういう空港もあるように聞いていますしね。

努力されているのは分かるんですが、この 10 億円を集めるには、目標年月日がないとなれば、永遠にこれをやっていくことしかないのかなと思って。地域としてもいろんな防音工事もやっていただく中で、非常に心苦しい感じがしているんです。

だから、遅延便について、減ることがなく増えていますので、これを何とかする方向に持つていっていただきたいんです。そのペナルティーの問題も前からこの協議会では話されたことがあると思うんですが、一切そういうことは考えないんですね。

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） 遅延便のペナルティーについて、航空会社への要請という形ですけれども、よろしくお願ひします。

● 北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 今のご意見ですが、成田空港や伊丹空港などでは、運用時間外にやむを得ず離着陸する航空機に対して、着陸料相当額の 2 倍の金額を徴収すると聞いております。

ただ、一方、深夜・早朝時間帯の離着陸を認めている新千歳空港につきましては、そのペナルティーの徴収というよりは、空港周辺に住まわれる方々の声を伝えることで、少しでも遅延便の減少につながるように、粘り強くエアラインや関係機関に訴えていくという

ことが重要と考えております。

我々としましても、毎年、防衛省と国土交通省東京航空局、H A Pの4者で開催する新千歳空港に関する意見交換を行う打合せ会議の場で遅延便の状況を報告して、遅延便を極力出さないように協力を要請しておりますけれども、今後も引き続き、その要請は継続していくとともに、それに加えて、エアラインと直接接触する様々な機会がありますので、直接の申入れをするということも含めて、これまで以上に切実な地域の声を伝えていくということで、積極的に取り組んでいきたいというふうに思います。

ただ今お伺いした意見につきましても、この会議などでも今後は協議していきたいというふうに思っています。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） よろしいですか。

●北海道（交通企画監） すみません、補足になりますけれども、今、遅延便の関係でご提起がありましたけれども、私どもは、この基金の造成に向けて、いろいろな取組を進めなきやいけないのは当然のことだと思っていますし、今おっしゃられたのは、遅延便に対して、それに固定した対応ということではなくて、我々としては、基金の造成に向けて、今までの取組では、なかなか遅々として進まないというところのご指摘でもありますので、やはり、この基金をしっかりと確保する意味では、今日、今お話がありました遅延便への対応とか、これまでとは違う観点から、やはり、柔軟に対応して、なるべく皆さんのご期待に応えるように、我々としては、しっかりと対応していくということになろうかなと思います。

引き続き、今、F委員からご意見がありましたけれども、例えば、この基金の造成に向けて、こういう取組ができないのかという部分については、いろんなアイデア等もいただいて、我々の中でそれを行政としてどういう対応をしていくのかということをしっかりとやっていくことに尽きるかなと思いますので、その辺についてはご理解をいただければなと思いますので、よろしくお願ひいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） G委員。

●G委員 財団の方にお聞きしたいんですが、今、積み立てられている20億円について、過去には、利息が減るなど大変な事態になるというような説明もありましたけれども、何とか、そんなに利息も落ちないできていると私は感じていますし、各町内会への配分もそれぞれ同じようになっていると認識しております。

運用期間について、長期や短期といろんなものがあると思うんですが、今の状況と今後どのように進めていくのか、地域に配分するものですので、皆さんも関心があろうかと思いますので、お願ひいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 今後の進め方ということですけれども、よろしくお願いします。

●（公財）新千歳空港周辺整備財団（事務局長） 今、お話がありましたとおり、今年に入ってから、株式、債券の利率がともによくなってきております。

今年は、2本ほど償還を迎えたものがありますが、2本とも前回より高い利率のものに買い換えております。何年か前には、利息が減る時代が来るということでしたが、今の状況では株式のほうも景気がよくなっています、そういう心配は少ないのかなと思っています。

今後につきましては、基金ですので、一番は安全なものを購入するということで、国債を中心に購入していきます。また、短期の運用を極力しないよう、長期で国債に準じるような安定性のあるものを選んで運用していくという方針でございます。

幸い、長期の国債につきましては、よい利率のものを購入できるようになっており、比較的、今のところはよい状況というふうに考えています。これも波がありますので、それぞれの期間の中で、一番安全なもの、利率のよいものを選んで購入していきたいと思っています。

●G委員 今のお話では、今後の見通しはよいということだと思いますが、国債中心だと思うのですけれども、国債と社債をどの程度の割合で運用しているのか、その辺のところも教えていただければと思う。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） お願いします。

●（公財）新千歳空港周辺整備財団（事務局長） 今、国債や地方債を中心に16本の債券で運用しております。国債と地方債が中心ですが、社債も購入しております。比率にすると、国債のほうが若干少なく、社債を多く買っているというような状況でございます。

令和6年度は、4,100万円ほどの運用益という結果となっております。19億の運用に対して、運用益は4,100万円で、道から補填されている1,500万円を合わせたものを町内会に配分しております。

●G委員 先ほどの説明では、国債が中心だと説明だったが、実際は、社債のほうが多いということだが、どういうことなのか。

●（公財）新千歳空港周辺整備財団（事務局長） 基本的には国債を中心に選んでいるのですが、場合によっては、国債より利回りのよい安全性のある社債も含めて検討しておりますので、その当時の利率の中で一番有利なもの、安全性を検討しながら購入しています。

●G委員 比率はどうなんですか、国債と社債の比率は。

●（公財）新千歳空港周辺整備財団（事務局長） 令和6年度では、16本の債権のうち、7本が国債、地方債です。9本が社債などです。

●G委員 分かりました。よろしくお願いします。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） そのほかにございませんでしょうか。
よろしいですか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ないようであれば、最後の（6）その他を議題といたします。

苦小牧市から説明いたします。

●苫小牧市（空港政策課長） よろしくお願ひいたします。

恐縮ですが、座って説明させていただきます。

それでは、（6）その他の新千歳空港における特定利用空港への対応につきましてご説明いたします。

10ページの資料6をご覧ください。

本件につきましては、6月12日付で地域協議会委員の皆様にはご一報をしているところでございますが、6月11日に国から本市と千歳市に対しまして、新千歳空港を特定利用空港の対象候補として検討しているとの説明がございましたので、本日、ここにご報告させていただくものでございます。

初めに、1の特定利用空港・港湾の概要でございますが、国は、自衛隊、海上保安庁が平素から必要な空港、港湾を円滑に利用できるよう、国と施設管理者との間で、円滑な利用に関する枠組みを設けたところでございます。これを特定利用空港・港湾とし、民生利用を主としつつ、自衛隊、海上保安庁の航空機、艦船の円滑な利用にも資するよう、必要な整備または既存の事業の促進によって、空港、港湾の利便性の確保や機能の強化を図るものとしております。

2番目の全国の選定状況でございますが、令和7年4月1日現在におきまして、全国で11の空港と苫小牧港を含む25の港湾が選定をされているところでございます。

3の国からの説明でございますが、下段にございますように、これまでの空港の運用は変わらず、円滑な利用に関する枠組みの確認は、あくまで民生利用との調整を図りつつ、自衛隊や海上保安庁の利用を適切に取り扱うことを確認するものでありまして、優先的に利用するものではないということでございます。

自衛隊や海上保安庁が空港の状況に精通することで、災害時に迅速な対応ができ、能力を最大限に発揮することが期待できると国から説明がございました。

また、インフラの整備につきましては、こちらもあくまで民生利用を主とした整備でありまして、自衛隊や海上保安庁専用の施設を整備するものではないと伺っております。

4の本市の対応でございますけれども、新千歳空港は国管理の空港でありまして、今後は関係省庁間で手続となり、市が連絡・調整体制の構成員とならないため、市としましては、今後も地域の不安や懸念が生じることがないように、市や地域の皆様へ丁寧な説明と情報提供を行うことを既に国に申し入れているところでございます。

次に、11ページから20ページでございますが、こちらは国が公表している総合的な防衛体制の強化に資する取組、公共インフラ整備についての資料を添付してございますので、後ほどご参照いただければと思います。

次に、21ページでございますが、こちらは新千歳空港における空港の施設の円滑な利用に関する確認事項（案）でございまして、先ほどの説明と重複いたしますが、こちらは関係省庁間で手續されるものとなっております。

最後に、22ページでございますが、こちらは今後の連絡・調整体制について記載され

たものでございます。

こちらの構成につきましては、インフラ管理者である国土交通省、防衛省、海上保安庁を想定しているとのことでございます。

なお、国の今後のスケジュールにつきましては、この年度末を目途に新千歳空港を特定利用空港として公表する予定であると伺ってございます。

私からの説明は以上でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思います。

よろしいですか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　それでは、ないようござりますので、本日の議題につきましては全て終了いたしましたけれども、委員の皆様からほかに何かご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

H委員。

●H委員　今日、北海道さんもいらっしゃるので、ちょっとお聞きしたかったんですが、この協議会で報告等があるものじゃないんですけれども、航空機の部品の欠落についてちょっとお聞きしたいんですが、毎年、このぐらいの時期に、前年度の報告がされています。これは2018年か19年からだと思うんですけども、大体1, 200件ぐらい、部品の欠落がありましたという報告があるんです。

7割超えのものは50グラム以下というような、これがずっと継続されてはいるんです。ただ、重量の重いもの、1キロ以上のものも数個、500グラム以上で言うと十数個ということで、これは変わらないということで、いろいろ取組もされているということは報告でうかがうことができるんですけども、実際の数字としてはあまり変わらないなどいうふうに受け止めています。

今後、今もそうですけれども、非常に航空需要が増えていくという中、それと、先ほど冒頭にもありましたけれども、人材が不足していくということで、そういった点検等々もなかなか行き届かない部分も出てくるんじゃないかなという不安があります。航路下の住民としては、重量のあるものが落ちてくるという、懸念というのがどうしても拭い去れないというふうに思っています。

報告体制もずっと従来のまま変わらずということで、内容も変わっていないということで、ちょっと懸念してはいるんですが、こういった報告に対して、北海道さんはどういうふうに受け止められているのか、また、何かアクションを考えていることがあればお聞きしたいなと思うんですけども、お願ひいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　部品落下の関係ということですね。北海道さん、よろしくお願ひします。

●北海道（交通企画監）　航空機の部品の欠落ということで、安全対策という部分でいく

と、地元の方とすれば相当な懸念があるということだと思います。

私も、冒頭にご挨拶で申し上げた中で、確かに、いずれの交通事業者においても、人手不足というところが大きな課題になっていまして、私も各方面から、そこに向かた対応について、いろいろと見解を求められることがありますが、航空機にかかわらず、公共交通機関、公共的な役割を担う事業者さんの事業継続においては、安心・安全をおろそかにしてはならないということで、新聞等に出ていますけれど、実際にJR北海道さんも予見し得ない事故等が相次ぎまして、国からも相当な指導を受けていますし、北海道知事からも綿貫社長に、安全対策の取組、これが道民の方々に見えるような形でしっかりと取り組んでほしいということは申入れをしております。

今、過去の件数から言えば、基本的にはあまり大きく増えてはいない言いながらも、今後、航空便数が増えることで、そのリスクが高まることが懸念されるところだと思います。

現実的に就航回数等が増えていけば、住民の皆様の不安も大きくなろうと思いますので、件数が増えてから手を打つではなく、私たちも広く交通事業者さんに対し、運輸局とも連携して、安全対策に対する働きかけや申入れ常々しておりますし、また、本日いただいたご意見を踏まえて、部品落下の件数も含めて、事象を再確認して、しかるべき対応をしっかりと図っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） よろしいですか。

そのほかにございませんか。

F委員。

●F委員 乗降客をはじめ、便数もコロナ前に近いぐらい戻ってきたということですが、これは私、個人的にですけれども、コロナ前には、この第3ターミナル構想をはじめ、新千歳の、JRの南伸問題もありましたが、これが大体戻ってきて、今、現ターミナルはもうかなり人数が多いのかなと思うんですけども、そういう構想、計画は発表できる段階でないのかもしれません、今後どういうふうに考えられているのかなと思って、地域は、もっと来たいというチャーター便の方もいらっしゃるようにも報道ではあるんですけどもね。どういうふうな方向で新千歳が進むのかなと、ちょっと関心があるので、分かっている範囲で結構でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 新千歳空港の今後の発展など、そういった部分でのお答えをお願いしたいと思います。

●北海道エアポート株式会社（地域共生担当次長）

ご質問、ありがとうございます。

F委員から今ございました第3ターミナルの話につきましては、弊社の当初のマスター プランですか、そういったところにお示しさせていただいたところでございますが、弊社が発足いたしまして6年目に入りまして、当初の段階では予期しておりませんでしたコロナの影響等がございまして、計画を進める上においては、大きな障害になった部分もございました。

ざいまして、新規のそといった活性化投資に関しましては、後ろ倒しにして、今後、計画させていただくという形にさせていただいております。

また、あわせまして、更新投資、いわゆる施設ですとかを維持整備する経費につきましても、想定以上の予算がかかるところでございますので、先ほど道庁様からもございましたとおり、安心・安全を第一優先と弊社といたしましても標榜しておりますので、そちらのほうを万全の体制をつくりながら、また、今後、需要が増えていく中で、活性化投資に関しましては、皆様のご意見等を拝聴しながら計画を進めてまいる所存でございます。

どうかご理解のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） そのほかにございませんか。

よろしいですか。

（「なし」と発言する者あり）

5. 閉会

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ないようございますので、以上をもちまして、第57回の新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会を終了させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

以上